

和歌山市中心市街地活性化基本計画（改訂版）策定のための市民ワークショップ 第5回（7月28日）開催記録

第5回目の「和歌山市中心市街地活性化基本計画（改訂版）策定のための市民ワークショップ」が、7月28日（水）午後6時30分より、和歌山市役所14階大会議室で開催されました。

前回のワーキングに引き続き、「自分たちがすること・できること」、「TMOがすること・できること」、「行政がすること・できること」をそれぞれのグループテーマに沿って検討しました。

グループ討議(ワーキング4)

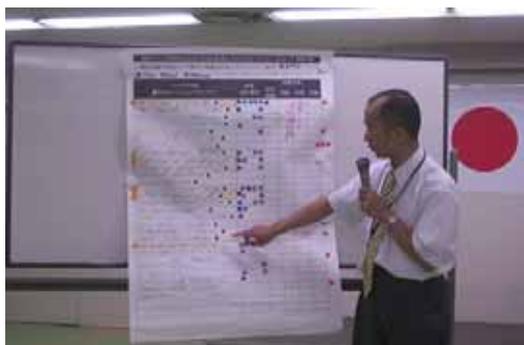
前回のワーキングから引き続き、中心市街地活性化を図るための具体的な事業案について話し合い、市民、TMO、行政がそれぞれできること（すること）の検討を、各グループの市民メンバーとワーキング協働スタッフ（TMO、県、市職員）で行いました。

各グループともに、活性化のための事業案は多く出てきていますが、それを実施するための方法や体制などを考えていくといろんな問題点があることが分かり、グループとしての考えをまとめるのになかなか苦労していました。

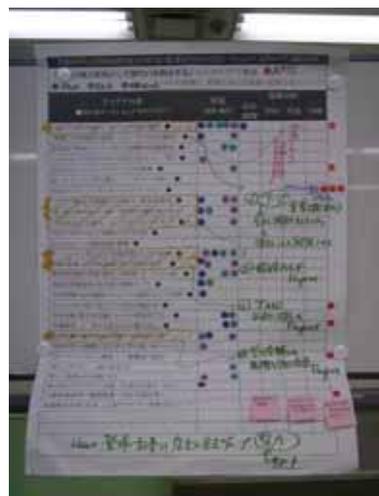
次回のワークショップで、各グループからの市民・TMO・行政それぞれの役割分担をもった具体的な事業案がひと通り揃う予定です。



討議終了後、各グループの代表者が、自分たちの検討結果のまとめを発表しました。それぞれのグループの検討結果は次のとおりです。



※写真はAグループの検討結果



Aグループ
「個店の魅力で人を惹きつけるまち」賑わい性創出ワーキンググループ

今回の議題

「自分たち、TMO、行政が
 すること・できること」

ファシリテータ
 氏 名

川崎 昌和

(検討結果)

今回は「空き店舗問題」及び「代替わり問題」について議論する予定でしたが、メンバーの方から「あくまでこのグループのテーマは『個店の魅力をいかにして向上させるか』が中心であり、「空き店舗問題」・「代替わり問題」は、本筋とは違うのではないかと？」という意見をいただきました。

「空き店舗問題」・「代替わり問題」は、個人の権利⇔まち全体方針の相克といった、非常に多くの要因が絡み合った問題であり、ワークショップの限られた時間の中で、「5年間で実現できること」としての解決策を提案するのは難しいのではないかと思います、このワークショップでは、あくまで「個店の魅力向上」という切り口から議論することとしました。

今回のワークショップでは、これまで出てきたアイデアをいったん整理・確認したうえで、「個店の魅力を向上させる取り組み・事業のアイデア」を再度検討しました。(アイデアについては、このワークショップで出されたアイデアに加えて、「事前調査におけるアイデア」・「庁内プロジェクトチームによる『TMOが取り組むべき事業案』」・「昨年度ワークショップでのアイデア」についても勘案して追加しています。)

その上で、それぞれのアイデアについて、実現に向けた体制・仕組み・役割分担を考えながら、「重点的に取り組むべきもの=優先順位の高いもの」を考えていきました。(シール貼り付けによる投票+各人のコメント説明という方式を採りました。 → **アイデア整理表**)

それらを踏まえ、以下の4つのプロジェクトについて、今後重点的に実現に向けた仕組みを考えていくこととしました。

- ①みんなが共感できるまちづくりのテーマ(特徴)の設定と遵守を継続していくプロジェクト
- ②個店力アップ・プロジェクト (逸品倶楽部、街の専門家、ぶらくり友の会)
- ③TMOネットワーク拡大・プロジェクト (実行委員会等による市民参加、イベント)
- ④空き店舗対策等まちの新陳代謝促進プロジェクト

なお、議論の過程で「個店の魅力づくりや、まちのコンセプトについては店主や店主グループ自身が考えるべきものであり、このワークショップで決めつけてしまってよいのかどうか」という論点が出されました。

この論点に関して、ワークショップは普段は立場の違う人々が集まって多様なアイデアを出しあうところに大きな意義があると考えられるため、このワークショップとしての提案はやはり出していくべきとの共通認識を得ました。それとともに、言いつばなしに終わるのではなく、実現に必要な仕組みや課題整理などを今後重点的に考えていきたいと思えます。幸い、店主の方も3名参加されているので、このワークショップのテーブルで考えたことが実際の動きとなっていくことも大いに期待できると思います。

Bグループ
「お気に入りの風景やスポットのあるまち」 界索性創出ワーキンググループ

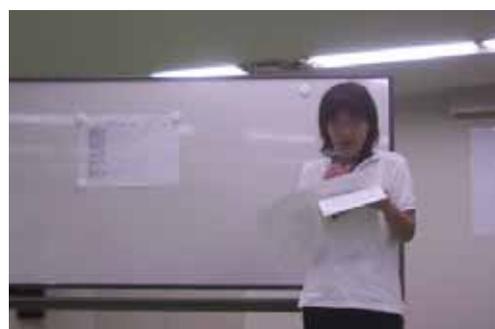
今回の議題	「自分たち、TMO、行政が すること・できること」	ファシリテータ 氏名	西川 昇
-------	------------------------------	---------------	------

(検討結果)

前回出た34個の解決案に、宿題として市民メンバーの皆さんに優先順位をつけてもらったものを、事前に集計して具体的事業案を話す優先順位をつけました。(優先順位の上位は下図参照)

順位	優先事業	事業主体		
		自分達	TMO	行政
1	色々な視点にたった地図の作成(例:市役所のラーメンマップ←すごく好評)	○		
2	全国的な規模でPRしたフォトコンテストの開催(二科会、JPSなどの写真の団体と連携、5年継続して日本でも「権威のあるコンテスト」に育てる)		○	
3	テーマ別歩きマップの作成(食いしん坊編、歴史編、グッドデザイン編、レトロ編、ナイスビュー編)	○	○	
4	「自分のまちを紹介しよう」授業(1~3年生の小学生を対象に「わかやま」のガイドブック、HPなどを作成し、JR、市駅、書店などでフリーペーパーとして配布)	○	○	○
5	まちの風景として公園を楽しく憩える場所にする(老若男女、カップル、子供が楽しくすごせる場所)	○	○	○
6	まちのメンテナンス(お金がかからない程度のペンキの塗り替えやメンテナンス)			○
7	「自分のまちの資料をつくろう」授業(4~6年生の小学生を対象に「わかやま(学区)」の歴史、産業、観光、遊び場などの資料作成→毎年蓄積する。最終的には図書館でデジタル化して保存、低学年はそれを参考に作業をする)	○	○	○
8	フリーペーパーやメディアの敷居を低くする(市民がメディアを持ちやすいように仕組みをつくる)	○	○	
9	今ある風景をマイナスにさせているものの改善(インパクトを与える様なオブジェを設置することも必要かもしれないが、例えばゴミを拾う、捨てないなどの意識改革も大事、気のきいたオシャレなゴミ箱があればなお良い)	○		
10	プラボーを使って色々なコンテストを継続的にする	○	○	

この中で関連づけることが出来る案を考慮しながら、上位に来た「地図の作成」「フォトコンテストの開催」という2案をより具体的にしていきました。5W1Hと併せて事業の予算規模と効果を考えながら話を進めていきましたが、予算のことを考えるとWEB上で実現できる案も多いことがわかりました。次回からはWEB上で実現できるものと、できないものにかけて具体化していきたいと思います。



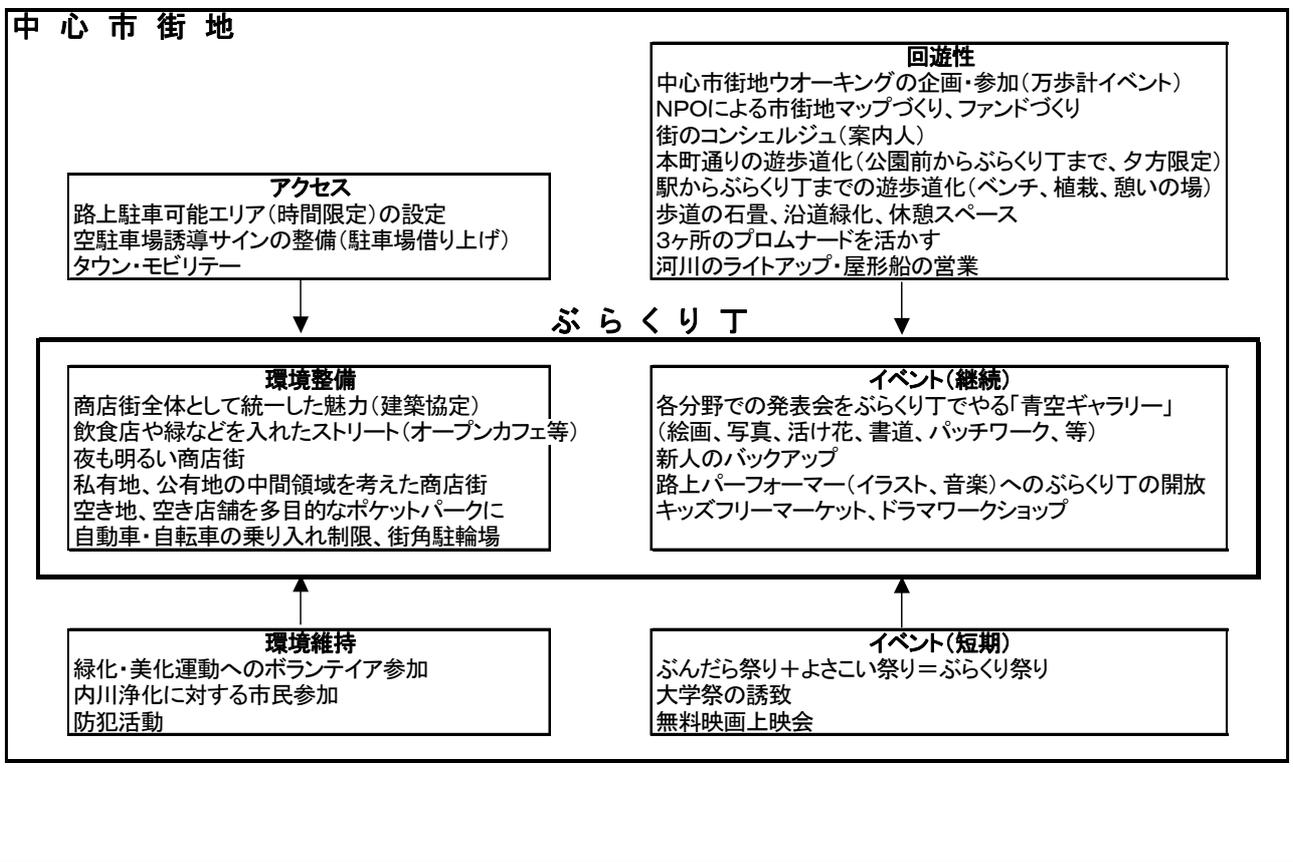
Cグループ

「長い時間ゆっくり過ごせるまち」回遊性・滞留性創出ワーキンググループ

今回の議題	「自分たち，TMO，行政が すること・できること」	ファシリテータ 氏 名	片桐 裕明
-------	------------------------------	----------------	-------

(検討結果)

前回のワークショップで提案された「自分たちのできること。」「誰かに働きかけなければできないこと。」に、いままで出てきた提案・事前調査の提案を加えた一覧表を作成、「TMO・行政がすること、できること。」について、意見を出してもらいました。40項目についてすべての検討は出来ませんでした。が、「長い時間ゆっくり過ごせる街には、やはりテーマが必要だろう。」との話題となり、前回提案を基軸とした、下記のような考え方で「回遊性、滞留性の創出を目指す」ことについて合意した。



Dグループ

「高齢になっても生き生きと暮らせるまち」暮らし空間創出ワーキンググループ

今回の議題	「自分たち，TMO，行政が すること・できること」	ファシリテータ 氏 名	鳥淵 朋子
-------	------------------------------	----------------	-------

(検討結果)

今回はTMOの取締役の方にグループ討議に入っていただき、TMOのスタンスや取り組み、運営の実態等について最初にお話いただきました。

タウンモビリティの導入について、和歌山県が平成12年に2日間イベントとして行った報告書の内容を共有しながら、タウンモビリティの効果、課題等についてアンケート結果などから情報を得ました。メンバーの中には、基本計画書(案)を作成して下さった方がいらしたり、電動スクーターという乗り物そのものについての意見や、財源の問題、運営に関わる人材の問題等についての発言がありました。また、あくまでも中心市街地に住んでいる人を対象にしながらも、外からやってくる人々に対しても付加としてサービス提供していく方向で合意しました。

【タウンモビリティ導入に向けての意見 とりまとめ】

TMO	<ul style="list-style-type: none"> ・やるべき主体だろう、しかし実労部隊等詳細案が必要
電動スクーター	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ市民権を得られていない乗り物 ・自動車のショールームに展示されるようになると良い ・乗ってみたいと思うようなデザイン性が必要 ・電動スクーターのデザイン公募などもおもしろい ・慈善団体からの寄贈も期待できる
財 源	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者負担はもちろんだが、運営費はどうするのか ・本来事業の部分に補助金を充てると、後が続かなくなる
問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・前回までに出た内容とほとんど同じ ・ハードの問題点をソフトでカバーできる方法論が必要
取り組みに向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・制度があるだけでなく、受け皿になる街の態度が問題 ・不自由さを忘れさせてくれることが大切 ・乗ってうろうろすることが楽しい。ちょっとカッコいい。 ・高齢者が酒場のはしごをできたら、きっと広まる。 ・環境にやさしい、良いことをする特典が必要 ・利用率を上げるのは、まず住んでいる人が積極的に利用する ・将来的に、誰々さんの家の前に置いてあり、貸し出しできるというのがあってもおもしろい。 ・市民、企業、行政が協働して事業計画を推進する ・市民による介助ボランティアの参加がなければ実現できない



次回の予定

次回（8月9日予定）のワークショップでは、前回・前々回と検討を行ってきた、『中心市街地活性化のために「自分たち、TMO、行政」が「すること・できること」』について最後の検討を行い、いくつかの具体的な事業案としてまとめていきます。